

## 生き方 人間として一番大切なこと (稲盛 和夫 (京セラ株式会社名誉会長))

私たち人間が生きている意味、人生の目的はどこにあるのだろうか。この最も根源的ともいえるその問いかけに、私はやはり真正面から、それは心を高めること、魂を磨くことにあると答えたい。

「この世へ何をしに来たのか」と問われたなら、私は迷いもてらいもなく、「生まれたときより少しでもましな人間になる」、すなわち「わずかなりとも美しく崇高な魂をもって死んでいくためだ」と答える。現世とは、心を高めるために与えられた期間であり、魂を磨くための修養の場なのだ。

人格というものは「性格+哲学」であると考えている。人間が生まれながらにもっている性格と、その後の人生を歩む過程で学び身につけていく哲学の両方から、人格というものは成り立っている。

ところで、人格を練り、魂を磨くには、山にこもり滝に打たれるなど、何か特別な修行が必要なのだろうか。いや、むしろ、この俗なる世界で日々懸命に働くことが何よりも大事なのだ。

労働には、欲望(人より楽をしたい。人より儲けたいなど)に打ち勝ち、心を磨き、人間性をつくっていくという効果がある。哲学は懸命の汗から生じ、心は日々の労働の中で練磨されるのだ。

人生・仕事の成果 = 考え方 × 熱意 × 能力

つまり、人生や仕事の成果は、これら三つの要素の“掛け算”によって得られるものであり、けっして“足し算”ではない。ここで、最初の「考え方」は最も大事な要素である。この「考え方」次第で人生が決まってしまうといっても過言ではない。しかも、考え方にはプラスとマイナスがある。いくら熱意や能力を高めても、考え方の方向が間違っている(マイナスである)と、結果としてはネガティブな成果を招いてしまう。

そして、日常において大切なこと一常に前向きで建設的であること。感謝の気持ちを持ち、みんなと一緒に歩もうという協調性を有していること。明るく肯定的であること。善意に満ち、思いやりがあり、優しい心をもっていること。努力を惜しまないこと。足るを知り、利己的でなく強欲でないということ。

仏教には「思念が業をつくる」という教えがある。業はカルマともいい、現象を生み出す原因となるものである。すなわち、よい思いを描く人にはよい人生が開けてくる。そして、人生は心に描いたとおりになる。強く思ったことが現象となって現れてくるのだ。

世の中のことは思うようにならない—私たちは人生で起こる様々な出来事に対して、ついそんなふうに見限ってしまうことがある。けれどもそれは、「思うとおりにならないのが人生だ」と考えているから、そのとおりの結果を呼び寄せているだけのことで、その限りでは、思うようにならない人生も、実はその人が思ったとおりになっているといえる。

「心が呼ばないものが自分に近づいてくるはずがない」つまり、実現の射程内に呼び寄せられるのは自分の心が求めたものだけであり、まず思わなければ、叶はずのことも叶わないのだ。

可能性とはつまり、「未来の能力」のことだ。現在の能力で、「できる、できない」を判断してしまえば、新しいことや困難なことはいつまでたってもやり遂げられない。できないことがあったとしても、それは今の自分にできないだけであって、将来の自分なら可能であると、未来進行形で考えることが大切だ。まだ発揮されていない力が眠っていると信じるべきなのだ。

志を高く持ち、目標を立てる。そしてその目標に向かって一步一步積み重ねる地道な努力を続けることが大事なのだ。ただし、昨日と同じことを漫然と繰り返すのではなく、今日より明日、明日より明後日と、少しずつでよいから、必ず改良や改善を付け加えていくこと。そうした「創意工夫する心」が成功へ近づくスピードを加速させるのだ。

困難なことであっても、そこから逃げずに、真正面から愚直に取り組む姿勢をもつ。私心や利己、利害や執着から離れた、公明正大で利他的な心で臨むのだ。

物質的にはどんな条件下にあろうとも、感謝の心を持てれば、その人は満足感を味わうことができるのだ。感謝の心が幸福の呼び水なら、素直な心は進歩の親である。素直な心とは、自らの至らなさを認め、そこから惜しまず努力する謙虚な姿勢のことである。

単純労働であっても、そこに創意工夫を働かせて仕事を楽しくする術。他人から強制されて「働かされる」のではなく、自分が労働という行為の主体となって「働く」知恵。そのようなものを確かに私たちは有しているのだ。

人は仕事を通じて成長していくものである。自らの心を高め、心を豊かにするために、精一杯仕事に打ち込む。それによって、より一層自分の人生を素晴らしいものにしていくことができるのだ。

一生懸命働くこと、感謝の心を忘れないこと、善き思い、正しい行いに努めること、素直な反省心でいつも自分を律すること、日々の暮らしの中で心を磨き、人格を高め続けること。すなわち、そのような当たり前のことを一生懸命行っていくことに、まさに生きる意義があるし、それ以外に、人間としての「生き方」はないのだ。